

	件名	提案者所属	提案要旨	表彰区分
1	ごみ収集車の識別にIT革新	環境政策局 適正処理施設部 施設整備課	<p>収集したごみの量と種類を正確に把握するため、ごみ収集車がごみを処理施設へ搬入する際に、車両情報とごみ種別等を記録した「IDタグ」という無線通信の機能を有した識別機器を使用している。これまで使用していたIDタグは、読取り装置との関係で、購入先が1社に限定されていたが、このIDタグの製造中止を契機に、新たなIDタグを検討し、平成29年度から導入した。なお、検討に当たっては、次の2点を工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IDタグの取扱い運用をできるだけ変えないこと。 ・以前に使用していたIDタグは、電池を内蔵していたため、電池の寿命(5年)を考慮して、毎年400枚以上の予備を購入する必要があったことから、電池を内蔵せずに、永年使用できるカードタイプに変更すること。 <p>今回、読取り装置も含めて、IDタグシステム全体を汎用品によるシステムに再構成したことにより、IDタグの通信規格を海外メーカーの独自規格から国際規格(ISO/IEC 18000-63)へ変更した。これにより、IDタグや読取装置の購入に関し、競争原理が働き、毎年の運用費用を大幅に削減できた。さらに、故障した際の迅速な復旧が可能となった。</p>	市長賞
2	オープンデータ超活用！“駐輪場が見つけるアプリ”できました！	総合企画局 情報化推進室 統計解析担当	<p>市民と行政が協働で地域の課題解決に当たる市民参加型社会の新しい公共サービスの枠組であるオープンガバナンスの取組支援等を目的に、東京大学公共政策大学院が主催しているコンテスト「チャレンジ！オープンガバナンス」について、オープンデータ活用の推進、市民等との協働の取組推進、さらに庁内の部局を超えた連携促進につながるものと考え、参加することとし、自転車政策や空き家対策等をはじめとするデータ所管部局への説明会実施など、庁内調整に努めた。</p> <p>また、ITの力で地域課題を解決しようという市民団体の例会に市職員が参加し、行政と協働で解決したい地域課題やオープンデータの活用方法等について意見交換を進めた。それらを踏まえて本市が提出した課題(「オープンデータと自転車をはじめとした観光資源の融合による持続可能な観光・交通を目指して」)に対する「京の歴史と街並みをつたえ隊(市民チーム)」のアイデア・活動や、本市のサポート、両者の連携が高く評価され、最高位の賞である「オープンガバナンス総合賞」を受賞した。</p>	市長賞
3	「伝える」を「伝える」に案内サインから始める意識改革	都市計画局 建築指導部	<p>都市計画局建築指導部では、多くの来客があるが、入口等が分かりにくく、各課、各係が独自に案内サインを設置していた。しかし、それらに統一性もなく、また複数のサインが設置されていることで、かえって混乱が生じ、市民が窓口を尋ねることが多かった。さらには、平成29年4月から窓口閲覧システムを導入することになり、さらに混乱が生じることが予測された。</p> <p>そこで、新揭示サインを設置することとし、サインの内容やデザイン、設置場所については、市民の要望等を直接聞いている建築指導部職員からアイデアを募集し、部職員の投票によりデザインを確定。作成も職員自身で行い、所管課の変更や庁舎整備による執務室の変更の際も速やかに修正できるものとした。設置後に職員にアンケートを行ったところ、迷う市民が目に見えて少なくなったことが確認できた。</p>	市長賞
4	新庁舎移転に向け、理想の執務環境を目指す！～快適業務サービス～プロジェクト	建設局 土木管理部 道路明示課	<p>平成31年度の新庁舎移転に向け、資料を使用頻度や内容に基づき、整理、統合し、新庁舎移転時の搬入資料の軽減を行う。また、新庁舎での窓口の相談・受付スペースの確保、安全でスムーズな資料の出し入れの動線確保など、適正な配置レイアウト等について、課内プロジェクトチームを結成し、①～④について実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保管庫の保管資料の内容及び文書量等配置図を作成した。 ②文書の廃棄、電子化・マイクロ文書化の検討を行った。また、月1回は全職員で集中して5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣付け))に取り組み、「増やさず、減らそう！」を意識し、作業を行っている。 ③スムーズな窓口業務を行うことを最優先に執務室内の什器配置案を作成した。 ④膨大な資料の所在を明確化して配置することで、必要な資料の所在を把握することができ、業務の効率化につながる。 	“きょうかん”賞
5	地域力を活かして空き家問題の解決を目指そう！	山科区役所 地域力推進室 総務・防災担当	<p>空き家の放置は、まちの景観、環境、衛生面の悪化を招き、地域の資産価値の低下や地域コミュニティの活力低下などの影響を及ぼす深刻な課題である。そこで、山科区では、平成30年2月に、地域住民と区役所、不動産事業者、弁護士や土地家屋調査士などの専門家により、空き家対策プロジェクトチームを結成し、所有者に空き家の活用等を促す等の取組を開始した。</p> <p>この取組を進めるに当たっては、空き家の情報を正確に把握する必要があるが、国土交通省が行っている無作為抽出調査では足りず、全数調査が必要であった。しかし、全数調査を業者に委託する場合は、数千万円の経費がかかる。</p> <p>そこで、地域の事情に精通している町内会、自治会へ調査の実施を依頼した。無償で実施していただいただけでなく、この調査を通じ、空き家が地域にとって「人ごと」ではなく「自分ごと」と理解していただくことができた。</p>	市長賞

	件名	提案者所属	提案要旨	表彰区分
6	地域ぐるみでコストダウン！！まちに防犯カメラ増設作戦	山科区役所 地域力推進室 まちづくり推進担当	<p>町内会等が設置する防犯カメラに対する助成事業では、設置費用の9割を助成しているが、町内会等が個別に業者から防犯カメラを調達するため、1台当たりの単価は割高だった。そのため、補助金予算が不足することが多く、設置を希望する町内会の要望に十分に答えることができなかった。</p> <p>そこで、山科区では区役所が一括して数社の業者から見積もりを取り、一括契約する方式に切り替えた。1台当たりの経費を約17万円抑えた結果、防犯カメラの設置台数を大幅に増やすことができた。平成28年度以降は、住民からの助成申請に全て応えることができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防犯カメラ1台当たりの経費：289千円→115千円 ●防犯カメラ1台当たりの補助額：225千円→104千円 ●設置台数：7台(H27)→64台(H29) 	市長賞
7	幸せ一杯！夢一杯！～「いい夫婦の日」に京北で届出挙式～	右京区役所 京北出張所	<p>毎年11月22日(いい夫婦の日)は最も婚姻届の提出が多い日であるが、京北出張所に提出される新夫婦は例年おられない。そこで、地域振興策として、当日京北出張所へ婚姻届を提出される新夫婦に、出張所内で心のこもった結婚式を開催し、京北で婚姻届を提出してもらおう。また、京北のファンとなってもらい、リビートや定住へとつなげるため、北山杉の「思い出婚姻証」や「夫婦箸」、婚姻時の写真を挟んだ「京北婚姻メモリアル証」及び「京北野菜の引換券2回分」を贈呈する。</p> <p>当日は、2組の方が参加し、イベントを行った。参加した方からは「将来的には京北に住みたいと思っているので、そういうきっかけにもなつたと思います。」という感想をいただいた。</p>	市長賞
8	ヤクルトレディが伏見消防団に入団～地域の皆様に「健康」と「安心安全」をお届けします～	消防局 伏見消防署 醍醐消防分署	<p>消防団員はサラリーマンの割合が大きく、活動は土日や平日の夜間に偏っており、屋間における消防団力が手薄になっていた。また、消防団における女性の割合は未だに低く、地域に貢献したいという気持ちがあっても、仕事と家庭の両立が難しいことなどにより参加できない女性が多かった。</p> <p>そこで、伏見消防団では、醍醐地域で活動されているヤクルトレディの方へ、伏見消防団醍醐地域予防広報班への参加を呼び掛け、「だいがFIREフローラ」に任命した。</p> <p>ヤクルトレディの方には、広報班として、宅配営業の機会に防火・防災に関する情報などを発信するとともに、配達用バイクに防火ステッカーを貼付することや、消防団員の名札を着用することで大きな広報効果が期待できる。</p> <p>現在は7名の方が活動し、地域に密着した広報活動を行っている。今回の結成で、消防団活動の可能性を各消防団に周知できたこと、またヤクルト営業所は全国にあることから、今後、伏見から京都、京都から全国に広がる可能性ができた。</p>	市長賞
9	地下鉄四条駅階段通行区分～ズバツと分けたい～	交通局 高速鉄道部 運輸課	<p>地下鉄四条駅は、1日平均乗降人員が約10万人と多客駅である。特に朝ラッシュ時の利用が多いため、阪急電車との乗換口となる北階段において、通行区分の明確化を目的に、上り側の階段幅を広くとる形で金属製の手摺りを設置していた。</p> <p>しかし、近年、お客様の増加に伴い手摺りの設置位置を改善してほしいという要望が寄せられるようになった。</p> <p>平成29年6月、地下鉄四条駅エスカレーターの老朽化に伴う更新工事の影響で、階段の利用がこれまで以上に多くなることから、流動をスムーズにするため階段手摺りを撤去し、階段の中央部に白い通行区分ラインを設置するとともに、階段を色分けし見やすく分かりやすいものに変更した。通行区分の色分けについては、公益社団法人京都府視覚障害者協会の協力を得て、弱視の方にも識別しやすい色を採用した。</p> <p>色分け後は、お客様の苦情も減り、これまで交錯していた通行の流れがスムーズになった。</p>	市長賞
10	自動券売機における「地下鉄一日券」発売による効果について	交通局 高速鉄道部 電気課	<p>「地下鉄一日乗車券」は、切符の券売機ではなく、専用の自動販売機での発売を行っているが、自動販売機は限られた駅でのみの設置であり、その他の駅では、有人BOXや駅務室での手売りを行っている。また、プラスチックの「地下鉄一日乗車券」であるため、コストが1枚約31円かかっていた。</p> <p>そこで、平成30年3月17日から、全駅全コーナーにある「(切符の)券売機」108台にて発売することとした。それに当たり、券売機にて「地下鉄一日乗車券」を販売していることを4カ国語で案内するとともに、「券売機」の画面や「地下鉄一日乗車券」そのものも4カ国語表記とすることで、お客様満足度の向上を図った。さらに、プラスチック券から切符と同様のロール紙で販売することにより、1枚当たり30円のコストダウンができた。</p> <p>改善に係る導入コストは77,883千円であったが、約二年半で回収でき、以後の営業費用の縮減に寄与できる。</p>	市長賞